

(別記)

2019年度里庄町地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

里庄町は、岡山県の南西部に位置し、温暖な気候で農業生産に適しているが、一方で山陽本線、国道2号線等の主要幹線が東西に横切り、近年では、小規模な住宅団地開発が進んでいる。

このような環境の中で、本町の農業は、農家1戸あたりの耕地面積が小さく、基盤整備もなされていないため、兼業率が高く、生産性や品質面で解決すべき課題が多いことから、農業生産額は、減少傾向にある。

転作作物の作付け及び定着には、不利な条件下にあり、自己保全管理等が多い中で、収益性の高い作物の作付けを促進することで、農業経営の安定と良好な水田面積の維持を図る必要がある。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

市場ニーズを踏まえた売れる米作りを基本に、家庭用・業務用等の需要や価格条件に応じた米の生産・販売に取り組む。家庭用については、基本技術の励行により良質な米の安定供給を行う。また、推奨品種のヒノヒカリ、市場評価の高い朝日米、収穫量の多いアケボノ等特色のある米作りを進めるとともに「地産地消」を推進し、需要に応じた安定供給を図ることにより良好な水田環境を保全する。

(2) 大豆、飼料作物

大豆については、大規模な農家は無く零細農家で栽培されており、機械化もなされておらず生産効率は良くない。そのため自家消費用としての作付けが中心で、販売は農協直売所のみでされている状況である。

飼料作物については、畜産農家が牛の自家用飼料として栽培しており、作付面積はほぼ一定となっている。

今後も転作作物として位置付け、推進にあたっては戦略作物助成を活用する。

(3) 高収益作物（園芸作物等）

比較的価格が安定している作物であり、里庄町の気候にも合っている坊ちゃんかぼちゃとマコモタケを振興品目として位置付け作付面積を拡大する。

(ア) 坊ちゃんかぼちゃ

核家族や単身者の増加により、少量で食べきれぬ野菜を求める声が強くなっており、今後需要の増加が見込める状況であり、里庄の気候にも合っている。

平成18年頃から作付けされたが、生産出荷設備の整備、販売先の確保等多くの課題を抱えている状況であるが、大阪市場や加工業者への出荷といった生産者と関係機関が一体となった取組を継続し、産地の確立と拡大を図る。

(イ) マコモタケ

地域の課題となっている耕作放棄地の解消の切り札と、町の特産品作りに取り組

むため「耕作放棄地プロジェクトチーム」を結成し、農協の直売所や道の駅、町内の飲食店での販売を本格化しており、生産者だけでなく学校や飲食店、地域住民、町外の人、行政を巻き込んだ活動となって地域で盛り上がりが見られる。

昨今、食と農の距離が拡大している状況の中、マコモタケの田植えから収穫・出荷に至るまでの様々な体験活動の場を提供したり、学校給食で使用する等、食育や地産地消の推進に関する活動にも活用している。

里庄町を代表する農産品として、普及させるため県内イベントに参加する等のアピールも活発に行っている。

良好な水田環境を維持するためにも水稻以外としては、最も適した作物と考えており、今後も取組を継続し、産地の確立と拡大を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	48.00	48.00	48.00
大豆	0.69	0.69	0.70
飼料作物	0.32	0.32	0.32
その他地域振興作物			
マコモタケ	2.22	2.49	2.67
坊ちゃんかぼちゃ	0.14	0.13	0.14
その他野菜	6.30	6.30	6.30
雑穀	0.12	0.12	0.12
果樹	2.80	2.80	2.80
花き・花木	0.59	0.59	0.60

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	目標値	
				前年度(実績)	目標値
1	マコモタケ	地域振興作物に対する助成	作付面積	(2018年度) 2.22 ha	(2020年度) 2.67 ha
1	坊ちゃんかぼちゃ	地域振興作物に対する助成	作付面積	(2018年度) 0.14 ha	(2020年度) 0.14 ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり